学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽Ⅱ（副科）	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等	イタリア古典歌曲集１、コンコーネ５０番（全音出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業では、高校生の音楽②、イタリア古典歌曲集、コンコーネ５０番、ファイル、筆記用具を持参してください。
・１年生で学んだ基礎を発展させ一人一人の発声や声楽の技能・技術を高めると共に、専攻の楽器でも求められる《歌うように演奏する》ため音楽的に歌うためのフレージングなどを学びます。特に歌詞や曲の創られた背景と楽譜に書かれた音楽的要素との関係を知ることにより表現を工夫し、音楽的表現の幅を広げます。
・２年生では、１年生よりも難易度の高いイタリア歌曲・ドイツ歌曲・日本歌曲に取り組み高校生の音楽２に掲載されているスタンダードな歌唱曲も学びます。
・声楽と同時に、授業では伴奏法についても学びます。将来的に共演したいと思われるピアニストになるために必要なことを楽曲の学習を通じて学びます。
・試験は、年に２回独唱を行う形で実技試験を行います。伴奏は生徒同士で互いに行います。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、楽曲の表現内容を積極的に理解し、演奏発表の場では演奏を共有し、互いに評価しあったりする活動に積極的に取り組む。	音楽を形作っている要素（特に歌詞の内容）や楽曲の背景や曲の造られた時代の特徴を知覚し、それらの動きを感受しながら、音楽表現の理解に基づいて工夫し、表現意図を持って創造的に表現している。	音楽理論、ソルフェージュなどの基礎的音楽能力を応用し、創意工夫を生かした音楽表現をするための声楽の発声技術や、歌うためのディクションの技術をさらに身につけ、創造的に表そうとする。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、互いの演奏や自己の演奏を振り返って言葉によって表現し自己の演奏に生かすことができる。
評価方法	授業態度（観察）	演奏聴取（実技試験）	演奏聴取（実技試験）	授業態度（観察）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	鑑賞の能力		
4～8	安定した発声の(声作り)学習・イタリア語・ドイツ語・日本語の発語法 曲種に応じた音楽と音楽表現・歌とピアノの関わりを学びアンサンブルする	①　安定した発声のための発声法を学ぶ ・声域を広げる ・腹式呼吸 ・5つの母音、子音と母音を意識した発声練習 ②コンコーネ50番 16～30番 ③世界の名曲に触れる 《高校生の音楽2より》 早春賦 夢 カタリ・カタリ からたちの花 雪の降る街を ラルゴ ④イタリア歌曲を歌う Amarilli Vergin tutto amor Se tu della mia morte Lasciar d'amarti O del mio dolce ardor Per la Gloria Dimmi amor ＊実技試験は7月・2 月に行う。 ＊歌は上記を基本とし、グループの進度に合わせてトスティ歌曲等を織り交ぜ、随時生徒の実態に適したものを取り扱う。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:毎時間の授業において歌う、ピアノ伴奏をするなどの活動を積極的に行い、習得した発声法を工夫して自分に合ったものにするよう工夫する。 b:楽曲の作られた時代や曲のスタイルを理解し、時代背景に相応しい奏法で、歌詞の内容と楽譜に記載された音楽的要素に注目し、発声やフレージングなどの表現を工夫して歌うことができる。 c: ➢音高、リズムなど楽譜に書かれたことを正しく読み取り歌う事ができ、創造的な表現に発展させようとしている。 ➢正しいイタリア語や日本語・ドイツ語の発音で歌うことができ、音楽的かつ効果的にその国の発音を捉えて発語して歌うことができる。 ➢曲種や詩の内容に応じた発声や表現方法で歌う事ができる。 d:発表の場で他者の演奏や自分の録画・録音を聴いた時、音楽の要素ごとに分析して感想を述べたり、よりよい表現のための方法を言葉によって表すことができる。知覚した他者のよさを自分に取り入れることができる。	観察 演奏聴取 授業観察 演奏聴取 ワークシート 授業観察 演奏聴取
9～12								
1～3								